

五月に於ける「觀察」 (其の三)

堀 七 藏

一

五月になつても四月に於ける觀察の繼續をなさねばなりません。殊に室内に於けるいろいろの遊び道具や運動場に於ける運動道具の觀察をなさしむべきことは勿論であります。従つて五月に新に加はるべき觀察材料は左程多きことを望む必要はありません。尤も幼兒に同一のものを繼續して觀察させることは興味をそぐやうでありますが、それは保姆の指導如何にあることであります。觀察だからといつていろいろの知識を授けんとしたり、また只「よく御覽なさい」と強要するときは幼兒はあき易いからいやがります。いやがるものを無理に觀察させる位困難なことはありませんが、同じものであるからいやることはないのであります。觀察する方面を轉換すれば新に興味を惹起することは容易であります。また單に觀るといふ觀察でなく、いろいろの作業と結付けると三月でも四月でも繼續してゐるも興味はつきません。幼兒が砂遊びに絶えず新しき興味を起し、いろいろの方面の觀察をなし、その結果いろいろの觀念を得てゐることは誰もよく承知してゐる所でありませう。また幼兒が水遊びを好むこともど

んなになく續くものかといふことはどなたも御承知でありませう。それで五月に於ても四月の材料について繼續的な觀察をさせることが必要であります。これは事物の觀察を養成する上に於て必ず行はねばならぬのであります。茶の花は茶の花盛りのときだけ觀察させて満足すべきものではありません。茶の花が咲いた後にどんなに變化するかも是非觀察させねばなりません。元來幼兒は外界の刺激を受けて個々の事物現象を斷片的に偶然に觀察することが多いのであります。その觀察は勿論明白を缺き、斷片的のものが多くのであります。自然の儘に放任して置けば幼兒は偶然の觀察をなし、無意識的な經驗をするに止まるのであります。幼稚園に於ては多少之を指導して意識的な經驗をなすやうにせねばなりません。それがためには同一の事物現象を成るべく繼續的に反覆して屢々觀察させることが必要であります。また外界からの刺激が弱くとも教師保姆が問を出して幼兒の目をその事物現象に向けしめ、幼兒が自發的に意識的に觀察するやうに指導せねばなりません。既に述べた如く觀察は、幼兒の觀察で決して教師保姆の説明ではありませんが、しかし教師保姆は幼兒の注意を特殊な事物現象に集中させてそれをよく觀察させるだけの指導を必ず行はねばなりません。「これはかくく」であります。分りましたか」などと、説明することは觀察に於て保姆がなすべきことではありませんが、「サアこのところがどんなになつてゐますか」と、幼兒の眼を集める方向を示すことは保姆のなすべき重大な任務であります。

さて五月になつてからは動物でも植物でも成るべく多く觀察させて幼兒の觀察を豊富にせねばなりません。植物ではその幼稚園の庭にある草花でも樹木でも成るべく觀察させて、その花や葉の形狀色彩等の觀察を明白にし、その名稱と結付けねばなりません。殊に五月には植物ではつつじでも藤でもまたたんぽぽでもべんべん草でも更に桐の花が得られるならばそれも觀察させるがよいのであります。また花菖蒲なども觀察の材料とするのがよいのであります。是等の草花は保育室の花瓶に生けて觀察させるもよく、幼稚園の庭に於てその儘觀察させるもよいのであります。觀察といへば花一本切つて、或は細かくこはしていぢくらせることだけではありません。さりの花で花輪をつくるもよく、つつじの花や藤の花でまゝこと遊びをさせるもよいのであります。またさりの花に集つてゐる蟻、ふじの花に群がる蜂なども觀察させねばなりません。またつつじの花の蜜を吸つてゐる蝶がどんなにしてゐるか、蝶がとぶときと蜂がとぶときとどんなに違ふかなど、いろいろのことを觀察させねばなりません。この點からして特に植物とか動物とかいふ風に、切離して觀察させることは面白くありません。多くの觀察材料を列舉したもののなどは大人の頭で分類して置く方が只便宜であるといふまでのものであります。幼兒が實際觀察するときには自然を對象とすべきものであります。成るべく總合的に大きな場面の自然物を觀察させる方がよいのであります。しかし總合的の觀察をさせねばならぬといふ趣意ではありません。只幼兒の自然に任せて大自然を觀察させるといふ態度でありたいのであります。従つて幼稚園の庭を散歩したり

遊んでゐる間に植物でも動物でも成るべく觀察させるのであります。お池に泳いでゐる金魚でも鮒でもまた龜でもぬもりでも、更におたまじやくしでもお池にゐる儘で成るべく觀察させねばなりません。強いて題をつけねばならぬならば「お池にゐるもの」といつてもよいのであります。また「花壇」といふ題で、それ／＼幼稚園の花壇の草花や、そこに集るもんしろてふ、雀、蜂、蜘蛛でも、またけむしでも觀察さものがよいのであります。それで幼稚園の附近に竹藪があればそこに幼兒を引卒して苟を觀察させるも結構でありますし、また竹の莖や葉を觀察させ、竹の葉で笹舟をつくらせてお池に浮べて遊ばせるもよいのであります。また竹藪で蚯蚓を見付ければ、それを觀察させるがよいし、蝸牛を見付けたならば蝸牛をよく觀察させねばなりません。また小川があつて幼兒を引卒することが出来れば、小川の小石、水の流れ、めだかやえび、ふなでも、どせうでも觀察させるがよいのであります。田圃に幼兒を連れて行けばその田圃で觀察出来るものをよく觀察させねばなりません。また手近に得られる材料を使つて幼兒の作業や遊びの材料とせねばなりません。農村の幼稚園で電車の觀察であるとか、その邊になき西洋草花を觀せることかするのは幼稚園に於ける觀察ではありません。それでその幼稚園々々によつて五月に於ける觀察材料が異なるべきものであります。幼稚園からせい／＼三四町以内、幼兒をつれて十分間位に行くことの出来る範圍内で幼兒に觀察させることの出来る材料を選択せねばなりません。満三四歳の幼兒でありますから之を引卒するには相當骨も折れ、また危険を伴ふのでありますから、それ等

の危険のない範圍内に材料を求めねばなりません。五月六月の農繁期に於ての託兒所幼稚園などでは特に注意して幼兒の遊び材料を考慮せねばなりません。

三

五月には多くの地方では五月節句が行はれませう。幼稚園でも五月節句のお雛様を陳列するとか、鯉のぼりや吹流しを立てる所も多いでせう。是等を觀察させることも肝要なことであります。吹流しや鯉のぼりと風雨などの觀察をなさしめるもよいのであります。また五月相撲にちなんで土俵や軍配、四本柱などを觀察させるもよいでせう。また農村では田植を觀察させ、田植祭り、また春祭などを觀察させるもよいのであります。是等の社會行事を取入れて幼稚園に於ける觀察・談話・唱歌・遊戲・手技等が総合的に行はれることは誠に肝要なことであります。社會行事を知らせるのが主要な目的ではなく、之を利用して幼兒の生活内容を豊富にさせ、幼稚園保育の目的を達することが眞の精神であります。